鹿島の祭頭嘲し

春一番、鹿島立ち

令和6年

3月9日(土)

これまで同日に斎行されておりました祭頭祭、祭頭嘲し、春季祭は、**令和2年**より下記の通り斎行いたします。

◆祭頭祭…【3月9日】(日程変更なし)

◆祭頭嘲し・春季祭

3月9日が土・日曜日の場合…【3月9日】(日程変更なし)

3月9日が平日の場合 ……【次の土曜日】

※新型コロナウイルスの感染状況により日程等が変更になる場合があります。

3/9 祭頭嘲しタイムスケジュール

時間	
10:00	祭頭祭参列
12:30	出陣(神宮駐車場)
13:00	仲町通り嘲し開始
13:30	踊り披露(いきいきサロン前)
14:00	角内通り嘲し開始
14:30	大町通り嘲し開始
15:00	踊り披露(うちだや前)
16:30	鹿島神宮内一斉嘲し
18:00	春季祭参列

下幡木郷
【大総督】馬場 結士
【組 数】15組
【人 数】180名

お問合せ先

鹿嶋市観光協会 ☎0299-82-7730
http:/www.sopia.or.jp/kashima-kanko/

鹿島神宮 ☎0299-82-1209
http:/www.kashimajingu.jp/wp/

鹿嶋市商工会 ☎0299-82-1919
http:/www.sopia.or.jp/shokokai/

鹿嶋市商工観光課 ☎0299-82-2911
http:/city.kashima.ibaraki.jp/

神栖市教育委員会 ☎0299-77-7495

鹿嶋市教育委員会 ☎0299-82-2911

【交通アクセス】
東京方面 ●車=東関東自動車道潮来I.C.から車で10分
●バス=東京駅八重洲南口から高速バスで120分
埼玉・栃木方面 ●車=圏央道大栄JCTから東関道潮来I.C.51号経由で30分 ●車=北関東自動車道水戸大洗I.C.国道51号経由で50分

鹿島神宮周辺 まちあるきマップ

鹿島神宮めぐり

1 大鳥居

東日本大震災で倒壊した鳥居にかわり、平成26年6月に竣工しました。神宮の森で数百年育まれた天然杉四本が使用され、その素朴で雄大な姿は震災復興のシンボルとして親しまれています。

2 楼門

寛永11年(1634)、徳川頼房公が奉納したこの門は「日本三大楼門」の一つ。緑の中にひときわ朱色が鮮やかです。なお「鹿島神宮」の扁額(へんがく)は東郷平八郎元帥の直筆によるものです。

3 本殿

社殿は元和5年(1619)徳川秀忠公より奉納されたもので、桃山期の極彩色が華やか。本殿・幣殿・拝殿・石の間のいずれもが国の重要文化財の指定を受けています。社殿の背後にある杉の巨木は根廻り12m樹齢1,200年と推定されるご神木です。

4 鹿園

園内に遊ぶ鹿たちは、〝神のお使い〟。現在の鹿は、鹿島から移された春日大社(奈良)の鹿の子孫を再び受け継いだものです。〝アントラー〟とは鹿の枝角のこと。Jリーグ「鹿島アントラーズ」の名もここに由来しています。

5 奥宮

慶長10年(1605年)、徳川家康が関ヶ原の戦勝のお礼に本殿として奉納されました。二代将軍、徳川秀忠による社殿造営の際に現在の処に引き遷したもので、重要文化財に指定されています。

七福神めぐり

にこやかな表情の七福神の石像が通りに並んでいます。中には握手を求めるように右手を差し出しているものも。縁起のいい神様たちにごあいさつして回ると、福を招きます。

イ 布袋
ロ 福禄寿
ハ 寿老人
ニ 弁才天
ホ 大黒天
ヘ 毘沙門天
ト 恵比寿

鹿島歴史めぐり

8 塚原ト伝の像

宮本武蔵との〝なべぶた試合〟の話で知られる塚原ト伝(1489～1571)は、鹿島新当流の開祖。その偉大な功績を記した碑と銅像が剣聖塚原ト伝誕生五百年を記念して建立されています。

9 鹿島城山公園

鹿島神宮駅から徒歩5分の距離にあるこの公園は、市民の憩いの場。北浦を望む場所には鹿島城跡の碑も建っています。

10 根本寺

聖徳太子の開基と伝えられる寺で、仏頂和尚の禅の師と仰ぐ俳聖・松尾芭蕉も貞享4年(1687)にここへ月見に訪れています。その様子は「鹿島紀行」にも記されており、境内には〝月はやし梢は雨を持ちながら〟などの句碑も建てられています。

11 鎌足神社

天智天皇に仕え、645年大化の改新を断行した藤原鎌足を祀る神社です。歴史書「大鏡」には、鎌足は鹿島神宮の鎮座する地で出生したとあります。

12 一之鳥居と北浦の夕日

大船津はその昔鹿島神宮参拝の玄関口として賑わい、水上に建つ一之鳥居は景観が親しまれていました。その往時をしのび平成25年に建てられたのが現在の一之鳥居です。

6 要石

地震を起こす大なまずの頭を押さえているといわれる霊石です。いくら掘っても全容は掘り尽くせないといわれ、〝鹿島の七不思議〟の一つにも数えられています。

7 御手洗池

この池は、古くから神職のみそぎの場で、大人が入っても子供が入っても水面が胸の高さを越えないといわれ、〝鹿島の七不思議〟の一つとなっています。公園も整備され、市民の憩いの場になっています。

春の訪れを告げる祭頭祭

毎年三月「イヤートホヨトホヤァー」の歌に合せて色鮮やかな衣裳を身に付けた囃人が六尺（百八十チセン）の樫棒を組んでは解き、囃しながら街中を練り歩く勇壮な祭りです。

奈良朝の頃、武運長久を祈って旅立っていった防人たちの「鹿島立ち」の故事を表わすと言われていますが、本来は五穀豊穣・天下泰平を願う祈年祭と言えます。

鹿島地方に春を呼び、人々の健康や豊作を願って行われます。

祭頭祭は、年間八十回を数える鹿島神宮の行事の中でも最も規模が大きく、勇壮な祭典です。

三月九日午前十時、昨年の春季祭で当番に卜定された大総督が狩衣姿で家族役員に護られながら昇殿し祭頭祭が厳かに執行されます。

祭頭囃し奉納当日十二時より、ほら貝・太鼓が鳴らされる中、祭事委員長の掛け声を合図にいよいよ祭頭囃しの行列が本陣を出立。行列が伊勢神社前に至り拝礼。その後行列は仲町通りへ向かいます。

色鮮やかな衣裳の囃人が、ほら貝や太鼓の音に合せて、囃し唄を歌い、ガッシ、ガッシと樫の棒を組みながら、仲町通り・角内通り・大町通りを練り歩き、いよいよ鹿島神宮に囃し込みます。威勢のいいかけ声は夕刻まで神宮の森に響きわたります。

祭頭祭の歴史

祭頭祭の起原は奈良時代の天武朝とも平安時代とも諸説ありますが、文献として遡りうるのは建仁四年（一二〇四）でこの時は、片野・長保寺と平井・宝持院が祭の頭人を務めています。

祭頭祭の祖形はその囃言葉からも窺えますように五穀豊穣、天下泰平を主な願意とする祈年祭に近く、しかも地域に密着した祭りでした。

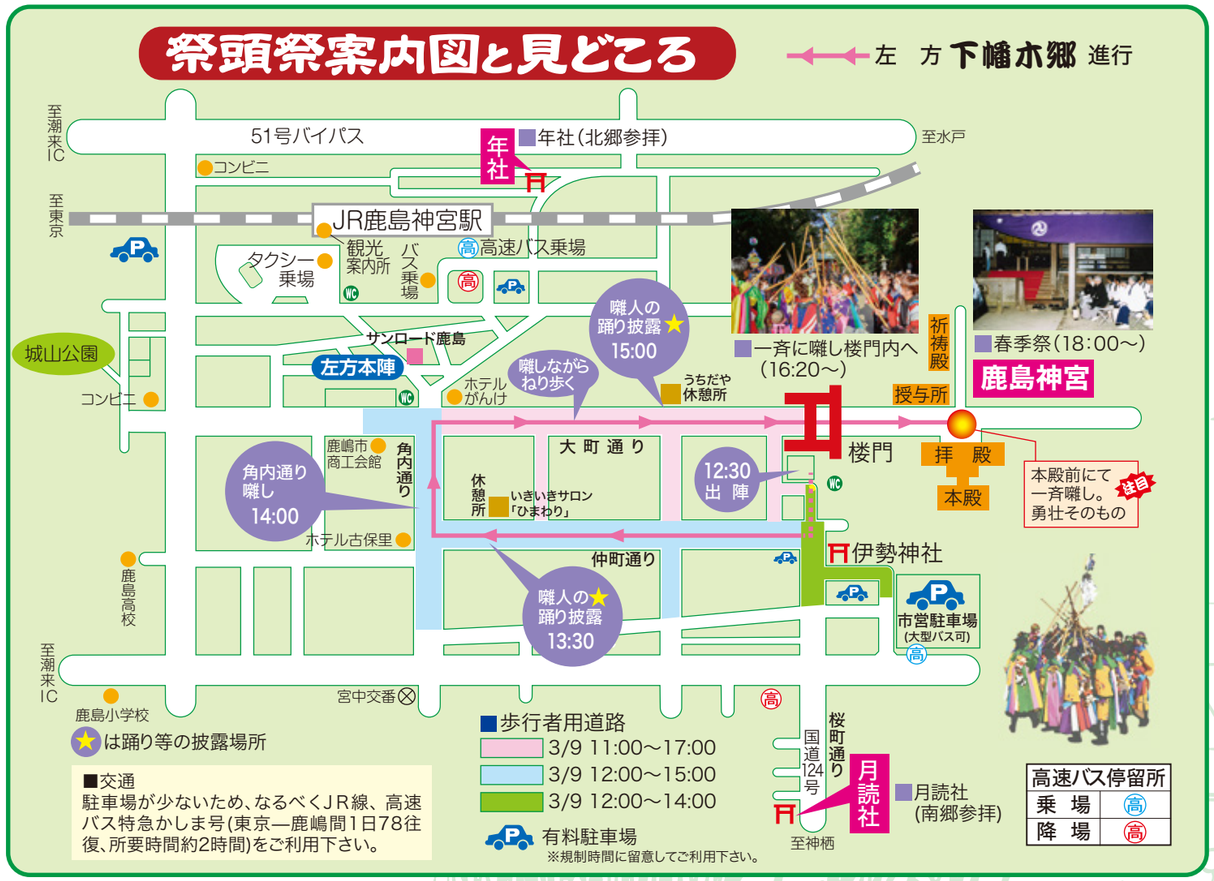
現に明治初期の茨城県への進達書には祭頭祭を『祈年祭』と規定しています。明治までの神仏混淆時代では二月十五日の釈迦入滅の常楽会に習合し、その名残りから男子の大総督を今でも「新発意」と表現しています。

昭和五十一年十二月には文化庁から国選択無形民俗文化財の指定を受けています。

鹿島神宮祭頭歌

弥発生鹿島の豊竹豊穂良豊穂弥
礼豊穂善豊穂弥アアヤレンラ御社楽豊穂良穂弥発生
イヤーホエ鹿島の豊竹トホヨトヤ
イヤートホヨトホヤアー、ヤレンラ
御社楽目出度いイヤーホエ
イヤーホエ若者揃ふたよトホヨトヤ
イヤートホヨトホヤアー、ヤレンラ
太鼓に合わせてイヤーホエ
イヤーホエ宮山参りはトホヨトヤ
イヤートホヨトホヤアー、ヤレンラ
氏子の喜びイヤーホエ
イヤーホエ田作り人等はトホヨトヤ
イヤートホヨトホヤアー、ヤレンラ
御国の礎イヤーホエ
イヤーホエ大御代豊かにトホヨトヤ
イヤートホヨトホヤアー、ヤレンラ
五穀は豊穣だイヤーホエ

祭頭祭案内図と見どころ



祭頭祭特殊用語あれこれ

北郷南郷　鹿島神宮を中心に北の大字を北郷、南を南郷という。

本陣　奉仕字が祭頭祭当日、拠点とする宿をいう。町内の旅館などを借り上げる。

新発意　一軍の将として卜定後に選ばれる五才前後の男児。大総督、又は小僧さまとも呼ばれる。

祭頭囃　十五、六名の囃し人が一組となり、太鼓の音に合わせて祭頭歌を声高らかに歌いながら、樫の棒を組んではほごし、ほごしては組む所作を繰り返す勇壮なもの。

春季祭　祭頭囃し奉納日午後六時に執り行う大祭、次年度の祭頭祭当番字を卜定する神事。

抽籤字　御当の籤に入った大字のこと。前回当番より約二十年で入る。

物申　当番が卜定した大字を担当する神職のこと。一年間祭事に関係する。

大豊竹　祭頭祭当日神前に立てられる根堀りの真竹、一年を通じて注連をかけ大切に育てられる。

棒揃え　最終的な練習と棒数の確認を行う行事。

廻り祭頭　鎮守の杜をはじめ、大総督家、または学校や大字内を囃し廻ること。

左方 下幡木郷

【大総督】
馬場 結士君(5歳)

●下幡木郷の紹介

令和6年の当番字である下幡木地区は、鹿島神宮から南東へ約7キロに位置し、地区内には約600の世帯、人口総数で約1,400人が暮らしています。

【自然・環境】

東関道潮来インターに近接する下幡木地区は、都心等からの訪問者を迎え入れる神栖市の玄関口として位置づけされています。地区の西側にある外浪逆浦での「浪逆の夕日」は、多くの写真愛好家からも愛される夕日絶景スポットです。

【信仰・文化】

地区の南側には下幡木の鎮守社である「三島神社」が鎮座しており、古くから村の鎮守様として区民の尊崇を集めています。今回の祭頭祭では、この三島神社において鹿島神宮祭神の分霊を迎え入れる降神祭が執り行われています。

地区の菩提寺である弥勒院には、お産で亡くなった家族の追善供養として法華経を写し埋納した「写経石」が残されていましたが、現在は市の有形文化財として歴史民俗資料館に所蔵されています。

この弥勒院には子安観音が祀られており、毎年9月17日には「観音様」と称する地区の祭りが執り行われ、周辺地区から多くの女子が訪れ安産・子育ての祈願がなされています。

また、下幡木には、里方から嫁ぎ先へ初孫を渡す「孫渡し」という珍しい風習が古くから伝えられており、この風習も市の無形民俗文化財として登録されています。

【祭頭祭の奉納に向けて】

新型コロナウィルスの影響により様々な制限のあった祭頭祭ですが、令和6年についてはコロナの影響も緩和され、以前のように平常通りの祭頭祭が挙行されることは誠に喜ばしいことであります。

今回の下幡木郷祭頭祭は、平成10年以来26年ぶりとなりますが、「明るく、仲良く、楽しく、元気よく（あなた元気）」をモットーに、前回同様、鰐川地区との共同開催として2つの地区が全勢力を結集してご奉仕してまいります。